



東浦窯跡群出土遺物②



東浦窯跡群出土遺物③



(1) 東浦窯跡群出土遺物④

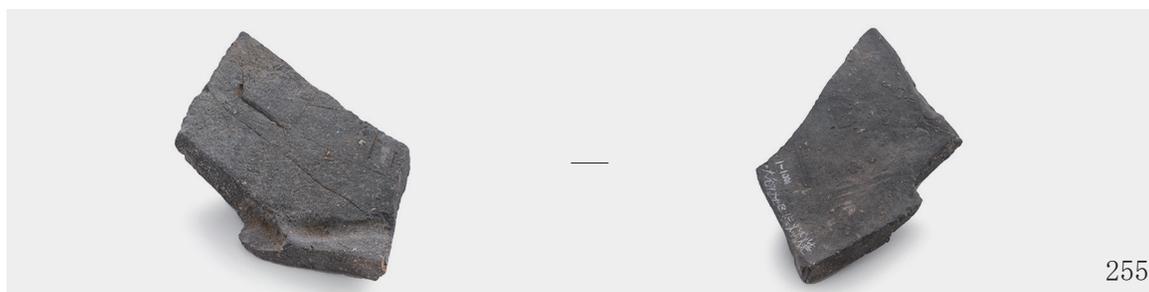


(2) 大谷窯跡群出土遺物①



大谷窯跡群出土遺物②





大谷窯跡群出土遺物④



大谷窯跡群出土遺物⑤



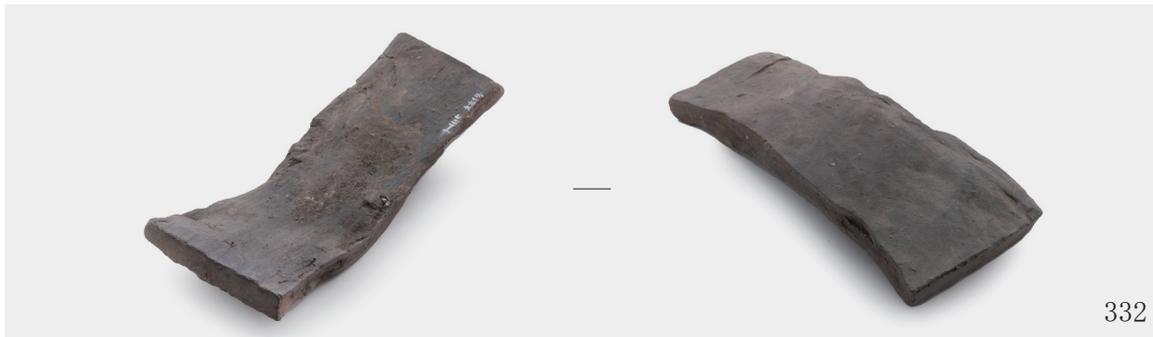
大谷窯跡群出土遺物⑥



大谷窯跡群出土遺物⑦



大谷窯跡群出土遺物⑧





大谷窯跡群出土遺物⑩



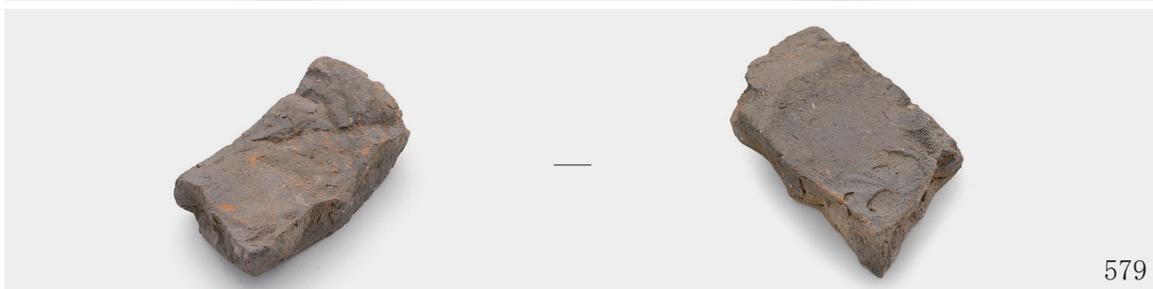
大谷窯跡群出土遺物⑪

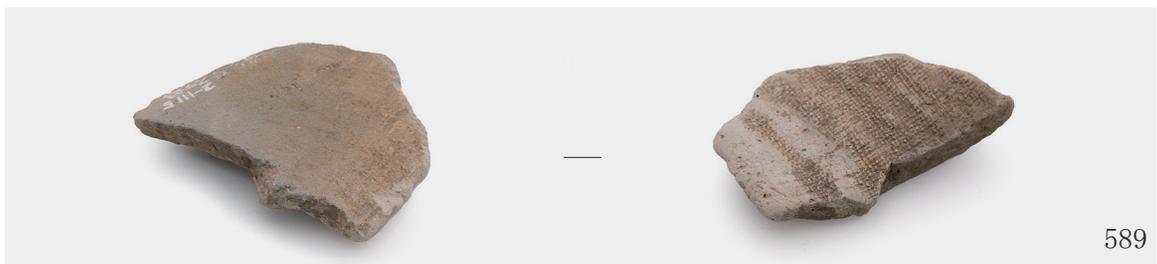
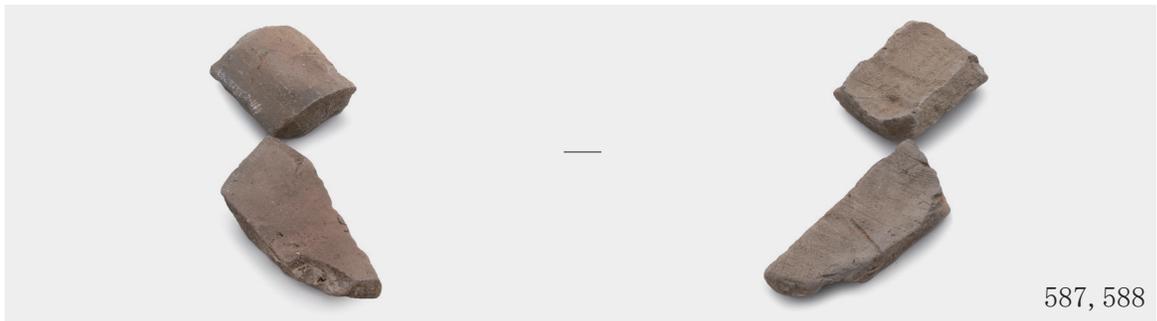


大谷窯跡群出土遺物⑫



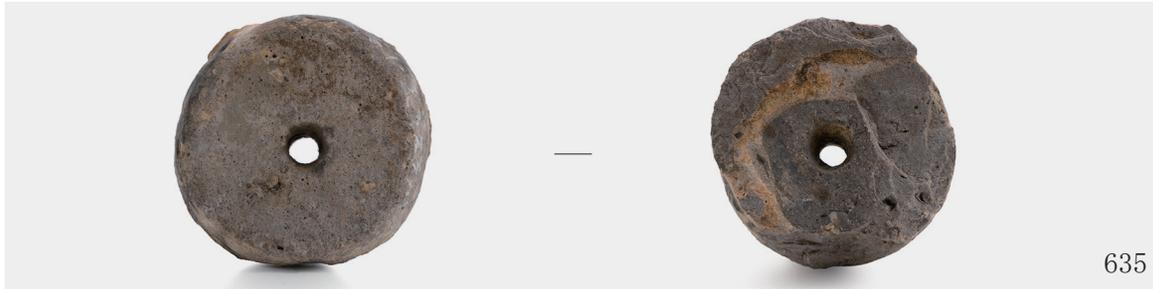
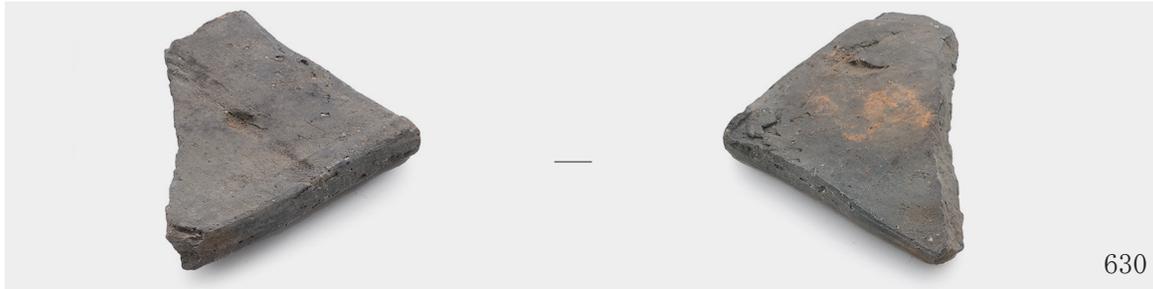
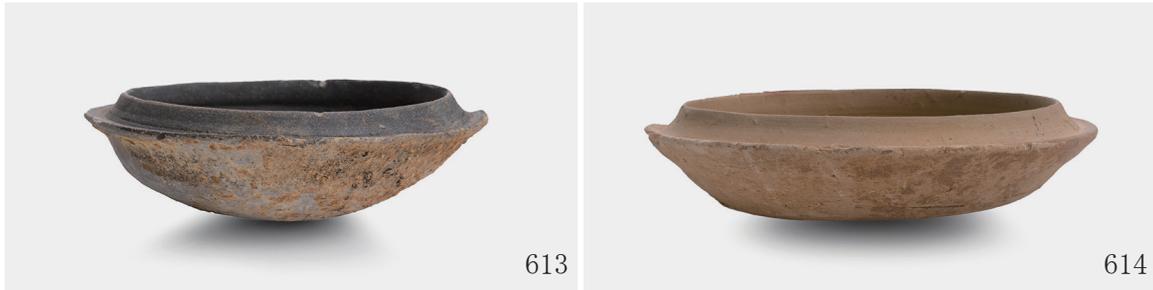
大谷窯跡群出土遺物⑬







大谷窯跡群出土遺物⑯



大谷窯跡群出土遺物⑰



大谷窯跡群出土遺物⑩



大谷窯跡群出土遺物⑱



大谷窯跡群出土遺物⑳



大谷窯跡群出土遺物②



大谷窯跡群出土遺物②



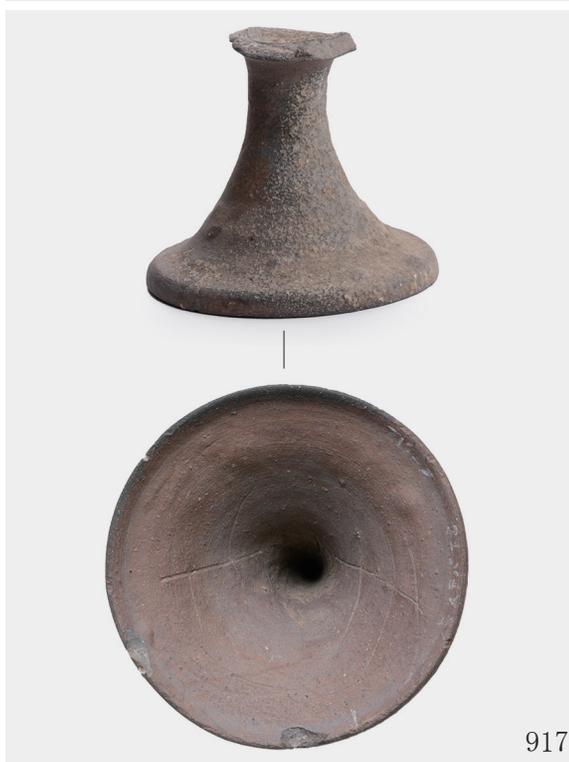
大谷窯跡群出土遺物②③



大谷窯跡群出土遺物②4



大谷窯跡群出土遺物②⑤





## 報告書抄録

ふりがな	おとがなかまあと・ひがしうらかまあとぐん・おおたにかまあとぐん							
書名	乙金窯跡・東浦窯跡群・大谷窯跡群							
副書名								
巻次								
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第188集							
編著者名	上田龍児・園井正隆							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話092(501)2211							
発行年月日	2021年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 / 〃	東経 。 / 〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おとがなかまあと 乙金窯跡	ふくおかけんおおのじょうしおとがなひがし 福岡県大野城市乙金東1丁目			33° 33′ 46″	130° 29′ 38″	1969年1月	約300㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
乙金窯跡	生産遺跡	古墳時代	須恵器窯跡 (2基)	須恵器		6世紀中頃～後半の須恵器窯跡		
要約	調査地は乙金山から派生する丘陵上に位置する。須恵器窯跡を3基確認し、このうち2基について調査を実施した。1・2号窯ともに地下式窖窯で、平面胴張形を呈する。出土した須恵器よりいずれも6世紀中頃～後半(ⅢA～ⅢB期)にかけて操業したものと考えられる。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 / 〃	東経 。 / 〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひがしうらかまあとぐん 東浦窯跡群	ふくおかけんおおのじょうしみなみがおか 福岡県大野城市南ヶ丘5丁目			33° 30′ 76″	130° 28′ 32″	1968年12月 ～1969年1月	約600㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
東浦窯跡群	生産遺跡	古墳時代	須恵器窯跡 (3基)	須恵器		6世紀末～7世紀初頭の須恵器窯跡		
要約	調査地は牛頸山から派生する丘陵上に位置する。須恵器窯跡3基について調査を実施した。1・2・3号窯ともに地下式窖窯で、平面寸胴形を呈する。排煙口を複数有する多孔式煙道窯である。出土した須恵器よりいずれも6世紀末～7世紀初頭(ⅣA期)にかけて操業したものと考えられる。須恵器の様相は3号窯が古相、1・2号窯が新相を示す。 なお、2号窯からは、鉄鏝および焼骨と考えられる人骨が出土している。操業後に墓として転用した可能性が高い。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 / 〃	東経 。 / 〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおたにかまあとぐん 大谷窯跡群	ふくおかけんおおのじょうしひらのだい 福岡県大野城市平野台2丁目			33° 29′ 46″	130° 27′ 53″	1968年12月	約700㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大谷窯跡群	生産遺跡	古墳時代	須恵器窯跡 (4基)	須恵器		7世紀前半～後半の須恵器窯跡		
要約	調査地は牛頸山から派生する丘陵上に位置する。須恵器窯跡4基について調査を実施した。いずれも地下式窖窯で、平面寸胴形を呈する。1～3号窯は多孔式煙道窯である。1・2号窯は初期瓦も生産する瓦陶兼業窯である。出土した須恵器より1・2号窯が7世紀前半(ⅣB期)、3号窯が7世紀中頃～後半(V～Ⅵ期)、4号窯が7世紀後半(Ⅵ期)に操業したものと考えられる。 なお、帰属する窯は不明であるが、獣脚硯や無文埴が出土しており注目される。獣脚硯は7世紀後半に位置づけられる可能性があり、牛頸窯跡群で獣脚硯を生産したことを示す確実な事例である。							

大野城市文化財調査報告書 第188集

乙金窯跡・東浦窯跡群・大谷窯跡群

令和3年3月31日

発行 大野城市教育委員会

福岡県大野城市曙町 2-2-1

印刷 香和印刷株式会社

福岡県久留米市津福本町 2320-15